



田川市郡広報紙合同企画「温泉」  
H14.2「広報あかいけ」No.469  
H14.3「広報かなだの風」No.442  
H14.7「広報ほうじょう」第224号

平成3年、田川市郡の広報担当により「広報連絡協議会」が発足。定期的に勉強会や情報交換を行い、よりよい紙面づくりに役立っています。

## 田川市郡広報連絡協議会

当時の担当に聞く “まちの話題”のコーナーを新設しました。町が苦しい状況だからこそ、住民のみなさんの笑顔やがんばっている姿を多く伝えなければと思いましたね。



長谷川浩 課長  
広報担当暦7年



H3.1「広報あかいけ」第336号

## 広報の歴史▶

昭和25年、旧赤池町で公民館だよりを母体に「赤池町時報」が創刊。B5版全4ページ。



S40.5「赤池町時報」No.84



S31.6 方城「村政だより」第1号  
S31.9 方城「町政便り」第1号

昭和31年6月、町政施行直前の旧方城村で「村政だより」創刊。8月1日に“町”となったため、村政だよりは1号で終刊しました。

# 1345

この数字、何か分かりますか？

これは合併前の旧3町の広報紙発行回数と、福智町での広報紙発行回数の合計。旧金田町527、旧赤池町521、旧方城町245でした。



S54.2「広報ほうじょう」第103号

昭和36年10月には「金田町報」が創刊。月1回の発行で、文字によるお知らせが中心の紙面でしたが、秋祭りや成人式が開催された際には大きな写真が表紙を飾りました。

S53.12「金田町報」第168号



昭和38年からはB4タブロイド判でも発行。その後、もとのB5サイズに戻り、試行錯誤する様子が見える「広報ほうじょう」。



S55.8「広報あかいけ」第211号

昭和40年に「赤池町時報」から「広報あかいけ」へ表題変更。昭和47年からは多い時で全10ページとなり、写真やイラストが増えました。

平成3年、B5版から現在のA4版になり、表紙・裏表紙がカラーになった「広報カナダ」。これは初の「季節号」で、春をテーマに町内の花や俳句教室の作品などが紹介されています。

H3.5「広報カナダ」春号(No.238号)

特集

# 広報の底力

5年目の春を迎えた福智町。平成18年4月に創刊したこの「広報ふくち」も、今号で52回目の発行となりました。今回は、普段何気なく見ている広報紙のことをもっと知っていただき、これからの「広報ふくち」のあり方をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。



H11.1「広報ほうじょう」第203号

当時の担当に聞く 広報ほうじょうは平成7年6月、A4版となって紙面一新。それまでの不定期発行を隔月発行に定着させ、情報の積極的な発信を心がけました。

森本潤子 係長  
広報担当暦5年



H6.12「広報カナダ」No.284

ページ数が増え、農業やゴミ問題などの特集、毎月のコーナーが充実。平成7年からは横書きを主とした「左綴じ」になりました。

## What is? DTP

### デスクトップパブリッシング

DTPとはパソコンを使って原稿の入力から編集、レイアウトなどの作業を行うこと。旧金田町と旧赤池町で導入され、文章や写真を担当者が用意し、紙面のイメージを業者に伝えて編集を委託する従来のスタイルから、担当者が編集作業までを行うやり方になりました。

## 広報紙は「永久保存」



役場の公文書は、規程により第1種～第5種に区分され、それぞれ保存期間が定められています。広報紙は「第1種:永久保存に属する文書」に位置づけられ、町の歴史を知るための重要な資料として保管されています。

当時の担当に聞く それまでの「広報カナダ」を平成13年4月に「かなだの風」と改名。町に吹く風を広報紙にのせて、さわやかにお届けしたいと思い名付けました。



永末卓哉 係長  
広報担当暦1年3か月



H13.4「広報かなだの風」No.420

平成14年から表紙と裏表紙が毎号カラーになり、行政情報以外のページが増加。ふじ湯の里や窯元、祭りなど旧方城町の観光資源が特集として紹介されています。



H16.11「広報ほうじょう」第237号



H15.12「広報あかいけ」No.491  
H17.12「広報あかいけ」No.519

日本広報協会が主催する「全国広報コンクール」で、その広報力が高く評価され、広報あかいけは“日本一”の栄冠に輝きました。

## 「特報」

昭和56年に旧金田町が配布し、財政状況悪化の現状や原因をお知らせした“特報”。町の実情や危機感を住民と行政が共有することが意識改革へとつながりました。

